



■「坂出らしさ」と「坂」を感じるインクルーシブな場

- ・心地よいインクルーシブな場を創出し、そこに行く目的をつくることで、坂出のまちなかに多様な人々が集い、交流し、滞在し、豊かな市民活動の発現につながります。
- ・屋内外に緩やかに区切られた多様な場を設け、それぞれが思い思いの時間を過ごせる計画にします。
- ・「坂出らしさ」を感じる多様なものが集積した「まちのリビング」に人々が集まり、「坂」の体験を通して豊かさを享受する空間を創出します。



坂を上るような吹き抜け空間



坂の向こうに行ってみたくなるようなランドスケープ

■ 全ての人にとって「居心地のよい場所」の実現

- ・誰もが居心地がよく、市民の活動が沢山詰まった新しい形の公共施設の実現につながります。
- ・これまでの図書館や緩衝緑地の固定概念にとらわれない魅力的なイベントの実施により、新たな利用者のきっかけを生み出します。
- ・市民アンケートやワークショップを実施し、市民が「やってみたいこと」や「自分達でできること」などを抽出・反映することで、自らが考え、活動できる計画にします。
- ・市民活動団体/NPOやボランティアグループとそれぞれの特色や特性を活かして連携・共創します。

誰もが利用しやすい場所、何度でも行きたくなる場所へ



坂出駅北口の駅前空間

■ ウォーカブルなまちづくりを先導する「まちのリビング」

- ・ 坂出駅北側の広場と駅前拠点施設前の広場空間、東側の駐車場を高木でつなぐことで、駅前エリア全体を人が美しく見える「みどりの器」とし、ウォーカブルなまちのシンボルとします。
- ・ 駅前拠点施設は四方にオープンな空間を配置し、広場の設置や植樹を行うことにより、施設とまちとの接点を作るとともに、心地良い景観形成につなげます。
- ・ 東西双方に主たる出入口を設け、まちに対して大きく開くことで、周辺機能や空間をつなげ、どこからアクセスしやすく誰でも気軽に立ち寄れる施設にします。

■ 屋内外を緩やかにつなぐ「坂の体験」

- ・ 駅前拠点施設の東に設けた広場は、少しずつレベルを上げながら地上から拠点施設の1.5階までを緩やかにつなぎます。
- ・ 駅前拠点施設の屋外空間は上層に行くほどなだらかにセットバックさせ、利用形態に応じて、自由な過ごし方が可能とするスキップ広場を設けます。各階を「階段＝坂」でつなぐことで、上へ上へと進み、視線の高さや物の見え方が移り変わる坂のような体験は、様々な活動との出会いを誘発させます。



明るく開放的な屋上広場



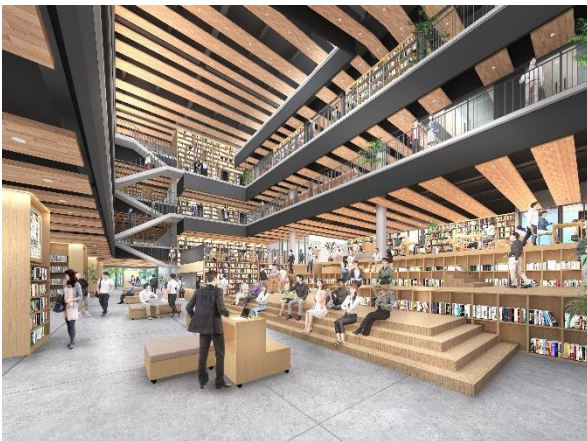
屋外テラスとなるスキップ広場

駅前拠点施設の外観（東側）



■ 人の出会いを誘発する吹抜けと人の活動が滲み出るスキップフロア

- ・ 広い/狭い、明るい/暗い、天井が高い/低い、賑やか/静か、オープン/クローズなど、**施設全体に多様な場**をつくることで、目的や年齢、人数などを問わず、誰もがお気に入りの場所で過ごせる**みんなのサードプレイス**をつくります。
- ・ エントランス上部には最上階まで貫く**4層の吹抜け**を設け、駅前拠点施設の顔となる**本に囲まれた特徴的な空間**を創出します。吹抜けを介した南北の床は、**半階上下にずらしたスキップフロア形式**を採用することで、階層間に視覚的なつながりを生み出し、**開放的で一体感のある空間**とします。



エントランス上部の吹抜け空間



各層を結ぶスキップフロア

■ 動線ごとの楽しさをつくり、混ざる・交流を促す「活動空間のショールーム」

- ・ 駅前拠点施設は、**大きく3つの場所に分類**し、それぞれの機能と空間に特徴を生み出します。
- ・ 1～1.5 階の『**まちの魅力に出会う場所**』には、カフェ、ラウンジ、地域物産販売所、ギャラリー、コワーキングスペースなど気軽に立ち寄れる機能を配置し、にぎわいのある空間をつくります。
- ・ 2～2.5 階の『**学びに出会う場所**』には、ライブラリー（一般開架スペース）、集中学習室、多目的活動室などの目的性の高い図書館・交流機能をまとめます。
- ・ 3～3.5 階の『**こどもの成長に出会う場所**』には、各種子育て支援機能やこども図書館、プレイルームなどを配置し、子どもと子育て世代が安心して過ごせる空間を計画します。
- ・ 中央の吹抜けを介して各機能を半層ずつずらして積み重ねるスキップフロア構成により、上下間の関係が緩やかに近づき、**機能の複合化による魅力を最大限に発揮**します。

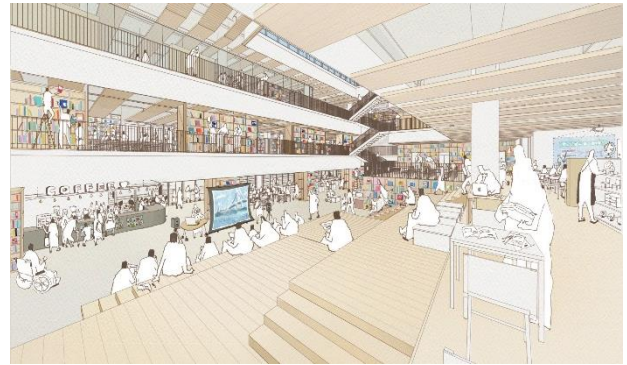


■「図書を借りる」場所から「過ごす」場所へ

- ・施設全体が「人と情報と地域がつながる場」となるよう**滞在型のライブラリー&カフェ**の機能を導入します。**カフェのようにくつろげる場**の存在が、新たな活力やにぎわいを地域にもたらしめます。
- ・1階のラウンジ空間やエントランスは、イベントや活動などの規模に応じて自由に領域を設定でき、**フレキシブルな使い方が可能な計画**とします。また、エントランスから1.5階への**階段を「坂のステージ」**として活用することで、施設全体の**にぎわいを生む活動の舞台**になります。



屋外テラスやエントランスに面したラウンジ空間



多様な活動に活用できる坂のステージ

■安全・安心に利用できる「子どもの成長に会う」場所

- ・不特定多数の利用者と交わりにくい3階の**1フロア全てを子どもたちの専用ゾーン**とすることで、物理的な**安全性**とあわせて心理的な**安心感**を生み出します。
- ・天候を問わず、子どもたちが自由に遊び、活動できる**プレイルーム**や乳児から未就学児までの**子どもの一時預かり室**を備え、子育て世代にとって魅力的な施設にします。
- ・豊富な児童図書を揃える**「絵本の山」**や年齢に沿った**知育玩具の貸出し**を行うとともに、子どもたちに工作道具や知育玩具の使い方を教える**「プレイリーダー」**を配置し、**遊びから学びを創出**します。



天候を問わず遊べるプレイルーム



子どもたちの好奇心をかき立てる子ども図書館

誰もが訪れたくなる、豊かな日常を生み出す緑の憩い空間



■ 既存樹木の保全と活用による「明るく心地よい緑」への転換

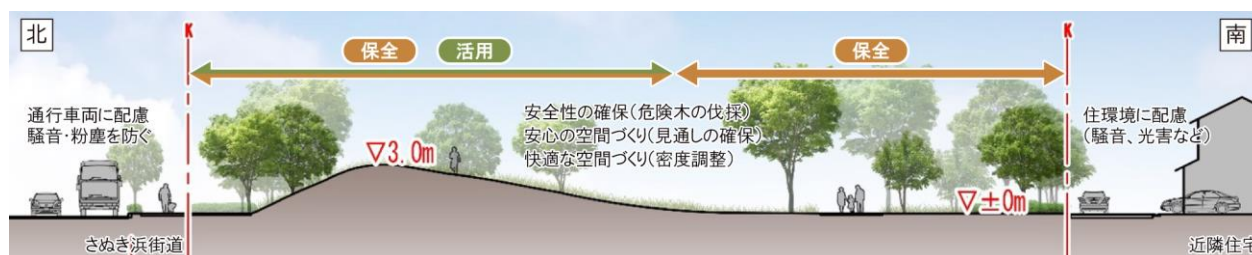
- ・ 既存樹木は市民と共に成長してきた資産と捉え、**可能な限り残置し、樹木を活かした空間**とします。
- ・ 残置する樹木は、計画的に適度な間伐や剪定を行うことで、**木陰を残しつつ、見通しが良く明るい空間**をつくります。



樹木の適度な間伐・剪定による明るく見通しの良い空間創出のイメージ

■ 「行ってみたい」を誘発する象徴的な空間づくり

- ・ 坂出市のシンボルである讃岐富士のブーテ地形をモチーフとした、美しい**芝生の丘**を整備することで、さぬき浜街道側からの**アイキャッチ**となる**風景**を創出するとともに、**緑地側からは道路を通行する車両を意識させない快適な空間**とします。
- ・ 芝生の丘は、**地形自体が遊び場空間**と捉え、自然の中で走りまわり意欲的に遊ぶことで、子どもたちの体幹を鍛え、無数の遊び方を作り出すしかけとなると同時に、マウンドで囲まれた形状は、さぬき浜街道の印象を和らげ、**緑に包まれた安全・安心の空間**とします。



既存樹木を活用保全する空間のイメージ



緩衝緑地における拠点施設の外観とイベント実施時の様子

■ 市民が集まる場所、生み出す場所となるコミュニティスペース

- ・ 緩衝緑地内に**フレキシブルに使用可能なフリースペース**、芝生の丘や広場が見渡せる**開放感のある貸室**を設けた管理棟となる緩衝緑地拠点施設を配置し、外部への市民活動の見える化を図ります。
- ・ 拠点施設では、キッズスペースや休憩スペースを設けて、市民が**自由に活動を行える空間**を提供し、ハンドメイド商品の販売や産直ブース、フリーマーケット、アート展示など、市民の自主的な活動を後押しします。
- ・ 芝生の丘や広場に面した拠点施設の貸室は、通常時は会議やカルチャー講座など**様々な市民のニーズに対応した利用が可能です**。



様々な利用が可能なフリースペース

■ 市民の「縁側」となるカフェ

- ・ 緩衝緑地拠点施設に隣接して、**芝生の丘と広場を見渡すカフェ**を配置します。**軒の深い縁側空間**をイメージしたデザインを採用し、市民が自然に顔を合わせる場所をつくります。
- ・ カフェに設けられたテラス席からは、芝生の丘と広場で**子どもが遊ぶ姿を見届けながら利用でき**、親子でゆっくりした時間を過ごせる安全で安心な空間を創出します。



芝生広場に面したカフェの内観



テラス席から子どもを見守れる緑地空間